

平成22年度 和歌山県文化奨励賞

とまり ゆき ひで
泊 幸 秀

住 所：東京都北区

出 身 地：和歌山県紀の川市

生 年：昭和50年

◎業績及び経歴

昭和50年粉河町(現紀の川市)に生まれる。智辯学園和歌山中学校・高等学校から東京大学理科I類に進学、在学中に生命の仕組みを分子レベルで解き明かす面白さに魅了され、以後、生化学の研究者としての道を歩み始める。平成15年に東京大学大学院工学系研究科化学生命工学専攻の博士課程を修了、同年に渡米し、マサチューセッツ州立大学医学部で博士研究員となる。

研究テーマは細胞の中にあるRNA(リボ核酸)、中でも「小さなRNA」と呼ばれるタンパク質の設計図としては働けないようなRNAの作用機構を解明することである。小さなRNAは多くのタンパク質と複合体を作ることによりその機能を発揮するが、氏は、この複合体が作られる複雑な過程を解明することに取り組んできた。

留学中より、世界的な科学誌「セル」や「サイエンス」に研究論文を発表。平成18年に帰国し、東京大学分子細胞生物学研究所並びに東京大学大学院新領域創成科学研究科の講師に就任した。平成21年からは同研究所並びに同大学院の准教授を務め、先駆的な研究を続けている。

平成22年には一連の研究成果が評価され、わが国の科学技術分野において顕著な実績を上げた40歳以下の科学者に贈られる文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞した。

近年、癌をはじめとする様々な疾患と小さなRNAとの関連性が強く指摘されており、小さなRNAを医薬として応用するための研究が世界中で進められている。その機構解明が進むことは、

これらの応用研究が飛躍的に進展することにつながり、その研究成果は常に注目を集めている。わが国を代表する若手科学者の一人として、更なる活躍が大いに期待されている。

■現在

東京大学 分子細胞生物学研究所

RNA機能研究分野 准教授

東京大学大学院 新領域創成科学研究科

メディカルゲノム専攻 准教授

■主な表彰歴等

平成5年 私立高等学校優秀卒業者に対する
和歌山県知事賞

平成22年 科学技術分野の文部科学大臣表彰
若手科学者賞

平成16年～平成18年

ヒューマンフロンティアサイエンス
プログラム 長期フェローシップ

平成18年～平成22年

科学技術振興機構 さきがけ研究者

平成20年～現在

ヒューマンフロンティアサイエンス
プログラム キャリアディベロップ
メントアワード